

国語科に関する調査の設問別の分析結果

全国学力・学習状況調査 B大問三 三

B 大問三（問題番号 三 に焦点を当てる）

詩を味わう

平野さんは、次のページの【図】のようにして、詩と写真を組み合わせて飾ることにしました。あなたなら、どの写真と組み合わせますか。【写真】のAからオまでの中から一枚を選び、選んだ写真の記号を書きなさい（どの写真を選んででもかまいません。）その上で、その写真と組み合わせる理由を次の条件1から条件3にしたがって書きなさい。なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 その写真と組み合わせる理由が分かるように、詩と選んだ写真とを関連付けて書くこと。

条件2 詩の中の言葉を使って書くこと。

条件3 解答用紙に書かれている後ろの文に続くように、六十字以上、九十字以内で書くこと。

参考 詩を二行以上引用したいときには、「樹は土に立っている / 樹はそこから歩かない」のように「 / 」でつないだり、「樹は土に立っている 樹はそこから歩かない」のように空白を入れてつないだりする方法があります。

【出題の趣旨】

詩を読んで、次のことができるかどうかをみる。
・詩の内容や構成、表現上の特徴などを踏まえて写真を選び、詩と関連付けて自分の考えを書くこと。

この問題は、詩の内容や構成、表現上の特徴などを踏まえ、写真という性質が異なる作品と関連付けて、自分の考えを書いたりする力をみることをねらいとしている。

ここでは、詩と組み合わせる写真を一枚選び、その理由を読み手に伝わるように関連付けながら書く場面を設定した。

【学習指導要領の内容・領域】

B 書くこと（第二学年及び第三学年）

エ 自分の意見が相手に効果的に伝わるように、根拠を明らかにし、論理の展開を工夫して書くこと。《記述》

C 読むこと（第二学年及び第三学年）

オ 目的をもって様々な文章を読み、必要な情報を集めて自分の表現に役立てること。

《情報の活用》

	正答率
本校	88.5
広島県	83.4
全国	80.8

この問題の正答率について、下は江田島市国語部会の解答類型分析結果、右は全国学力・学習状況調査の分析結果であり誤差がある。江田島市国語部会は6月に誤答分析をし、この問題に関しては、二段落目の「だから」を段落の始めと考えていない解答や主述のねじれがあり、詩と選んだ写真との関連が分かりにくい解答はすべて誤答とした。解答類型をどうとらえるかによって、正答率が変わってくることは否めないが、これらを江田島市の共通課題として挙げ、課題克服のための授業改善に取り組んできた。

解答類型	1 正解	2	3	4	5	6	7	8	9	無解答
本校の割合(%)	34.6	1.9	3.8	15.4	21.2	0.0	0.0	0.0	21.2	1.9

この問題を解くために必要な力

- ・自分の意見が相手に効果的に伝わるように、根拠を明らかにし、論理の展開を工夫して書く力。
- ・目的をもって様々な文章を読み、必要な情報を集めて自分の表現に役立てる力。

誤答分析

- ・類型5の場合について、「だから、私はこの写真と組み合わせます。」に続くように、整った文章で書いていない。

A 二段落目の「だから」を段落の始めと考えず、文の続きとして考えている。

B 主語・述語のねじれがある。

- ・類型4の場合について、組み合わせる理由が分かるように、詩と選んだ写真とを関連付けて書いていない。

A 詩と選んだ写真との関連が分かりにくい。あいまいな表現。理由が具体的ではない。

調査結果の分析をふまえた指導改善のポイント

【単元名・題材名】 古典を楽しむ 夏草～「おくのほそ道」から～

調査結果からみる課題

【課題となる力】

自分の意見が相手に効果的に伝わるように、根拠を明らかにし、論理の展開を工夫して書く力。

目的をもって様々な文章を読み、必要な情報を集めて自分の表現に役立てる力。

【指導上の課題】

- ・「理由は・・・から。」という形式で発表させたり、書かせたりすることを定着させていない。
- ・主述のねじれがあるかどうかに着目させていない。
- ・理由を支えるの内容及びあいまいなものになるような発問しかしていない。

指導改善のポイント

書く・話す場面で、主述をきちんと表現させる。

具体的・明確な根拠を導き出すための「読み取る観点」を具体的に示す。

【指導の工夫】

自分の意見が相手に効果的に伝わるように、主述のねじれがない整った文章が書けるようにする。

根拠を明確にして自分の考えをまとめるために、自分の考えを支える根拠となる表現を資料や文章から挙げさせる。そのためにより、「読み取る観点」を具体的に示す。

1

自分の意見が相手に効果的に伝わるようにするために

書く場面において

理由を表す文末表現である「・・・から。」まで書かせる。

書いたものを見直すポイントを指導する。

例；主述のねじれはないか。

「理由 から。」という表現になっているか。

2

根拠を明確にして自分の考えをまとめるために

書く場面において

理由を導き出すための「読み取る観点」を具体的に示し、書かせるために「書ける状態」を作る。

発表する場面において

「理由は 。」で終わるのではなく、「理由は・・・からです。」とはっきり言わせる。

例；「選んだ写真と詩の共通点」という観点について読み取らせる。

5W1Hという観点について整理をし、具体的に読み取らせる。

中学校第3学年 国語科指導案

単元名：古典を楽しむ 夏草～「おくのほそ道」から～

- 1 日 時 平成21年11月12日(木)第5校時
- 2 学年・学級 3年2組(男子14名 女子14名 計28名)
- 3 単元名 古典を楽しむ 夏草～「おくのほそ道」から～

単元について

国語科学習指導要領C「読むこと」の配慮事項には、「イ古典の指導については、古典としての古文や漢文を理解する基礎を養い古典に親しむ態度を育てるとともに、我が国の文化や伝統について関心を深めるようにすること。」とある。

本単元は、一年次の「古典との出会い」、二年次の「古典に親しむ」という単元をふまえ、中学校の古典学習のまとめとしての位置づけを持っている。このような単元で学習する「おくのほそ道」は、我が国の代表的な紀行文学の一つであり、この作品にこめられた芭蕉の生き方や人生についての考え方などを知ることによって、古典への関心が高まり、生徒自身の人生観や自然観に新しい目を開かせてくれると考えた。さらに、この作品を通して作者の深い思いを共有することができるのではないかと思われる。

調査結果からみる課題

【全国学力・学習状況調査 B - 大問三 問題番号 三 誤答分析より】

【類型5】のように、主語・述語のねじれがあるため、整った文章で書くことができていない。

< 誤答例 >

私がウを選んだ理由は、「樹は土に立っている/樹はそこから歩かない/樹は空へ向いている」から樹の人生というものが感じられました。写真の中でそれを感じられるのがウの写真でした。
(だから、私はこの写真と組み合わせます。)

感じられたからです。

【類型4】のように、「なぜあてはまると思うのか」があいまいで、詩と写真を関連付けながら考え、写真と詩が当てはまると思う考えを支える具体的で明確な根拠や理由が挙げられていない。

< 誤答例 >

私がこの写真を選んだ理由は、「樹は土に立っている/樹はそこから歩かない」というところや、「きつとその根は土になってる」というところが当てはまるような写真だと思うからです。
(だから、私はこの写真と組み合わせます。)

というところが、太い根をしっかりとおろしていてどっしりした感じが伝わってくるので当てはまると思うからです。

指導改善のポイント

自分の意見が相手に効果的に伝わるように、主述のねじれがない整った文章が書けるようにする。根拠を明確にして自分の考えをまとめるために、自分の考えを支える根拠となる表現を資料や文章から挙げさせる。そのために、「読み取る観点」を具体的に示す。発表する場面において、「理由は　　。」で終わるのではなく、「理由は・・・からです。」とはっきり言わせる。

単元の目標

- ・ 古文を理解する基礎を養い、古典に親しむ態度を育てる。
- ・ 音読を通して、文章の内容や優れた表現を味わうことができる。 〔第3の1(4)イ〕

指導と評価の計画

(全時間7, 本時3/7)

次	学 習 内 容 (時数)	観点別評価					評 価 規 準	評価方法
		関 意	聞 話	書 く	読 む	言 語		
1	冒頭部分の音読。 古文の基礎を理解し、大意をつかむ。(1)						冒頭部分(原文と口語訳)の音読をし、口語訳を利用しながら大意をつかんでいる。	音読 プリントの内容
	冒頭の視写。 芭蕉が考える人生観について読み取る。(1)						口語訳や注釈を利用しながら、芭蕉が考える人生観について読み取っている。	ノートの内容
	おくのほそ道への旅立ちにあたっての芭蕉の心情について考える。(1)						おくのほそ道への旅立ちにあたっての芭蕉の心情について、原文や資料の記述を根拠にしながら、自分の考えをもっている。	プリントの内容
2	「平泉」の場面の内容把握と芭蕉の心情を読み取る。(1)						「平泉」の音読をし、大意をつかんでいる。	ノートの内容
3	芭蕉について知りたいことを挙げて、課題設定をする。(1)						疑問に思った事をあげられる。	プリントの内容
	芭蕉の裏事情調べ(資金集め・芭蕉の最期・芭蕉の裏の顔など)。(1)						インターネットや文献を調べ、情報収集をしている。情報収集したものを整理し、分かりやすくまとめている。	情報収集 情報整理
4	芭蕉の旅の目的と芭蕉の生き方について考える。(1)						調べたことを理解に役立て、芭蕉の考えに迫り、芭蕉の生き方や考え方に対する自分の意見をもっている。 既習事項をもとにして、芭蕉の人生観についての自分の考えを4百字程度の文章にしている。	作文の内容

本時の学習

(1) 本時の目標

古文の言葉遣いに気を付けながら読み，原文のもつリズムや言葉の美しさを味わう。
 おくのほそ道への旅立ちにあたっての芭蕉の心情について原文や資料の記述を根拠にしながら，
 自分の考えをもつ。

(2) 本時の学習展開

学習活動	指導上の留意事項	評価規準	評価方法
1 本時のねらいを確認する。			
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> おくのほそ道への旅立ちを前に芭蕉はどんなことを考えていたのだろうか。 </div> 聞き取り 1 回で板書を写させる。		
2 「旅立ち」の場面の音読と冒頭部分の暗唱をする。			
古文の言葉遣いに気を付けながら繰り返し音読し，原文の持つリズムや言葉の美しさを味わう。	全員で原文音読の後，ペアで交互読みをさせ古文の言葉づかいに気を付けながら読ませる。 個人で冒頭部分の暗唱をした後，一斉に冒頭部分の暗唱をし原文のもつリズムや言葉の美しさを味わう。	古文の言葉遣いに気をつけながら読んでいる。 原文のもつリズムや言葉の美しさを味わっている。 【読む】	音読の声観察
3 前時を振り返り，芭蕉の人生観について確認する。			
冒頭部分の「人生は旅のようなものだ」「古人のような生き方をしたい」という芭蕉の人生観を確認する。	冒頭部分の口語訳や前時のノートを読み返させ，芭蕉の人生観が表れている表現を出させる。		
4 旅立ちの場面を理解する。			
語注や口語訳を参考にしながら，ワークシートを完成させる。 ・(立春)のころ，(白河の関)を越えたい。 ・まず，「松島の月」が気になってくる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> 芭蕉の「おくのほそ道プラン」を口語訳を参考にして，完成させよう。 </div> 語注や口語訳を参考にさせ，「おくのほそ道」の旅はどの方向へいくのかを考えさせる。 原文の「まず」に着目させ，芭蕉が「松島の月」が一番気になっていることに気付かせる。		

5 資料を読んで、江戸時代の旅事情や芭蕉の一生について理解する。

<p>資料を使って、江戸の旅事情や芭蕉の一生について読み取る。</p> <p>原文を参考にさせ、旅立ちの前に芭蕉がしたことを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 股引の破れを縫う ・ 笠の紐を付け替える ・ 三里に灸をすえる ・ 自分の家を人に譲る 	<p>【資料の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 江戸時代の旅の交通手段 ・ 他の藩に行くために必要な「通行手形」 ・ 芭蕉が今までに行った旅のルートと奥の細道のルート ・ おくのほそ道の総行程距離・日数 ・ 江戸時代の奥羽地方について ・ 「松島」という土地について <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>旅立ちを前に、芭蕉がした旅支度を挙げてみよう。</p> </div> <p>原文に注目させる。 原文から読み取りにくい場合は、口語訳に注目させる。</p>		
---	--	--	--

6 旅立ちにあたっての芭蕉の心情について考える。

<p>おくのほそ道の旅に出発するときの芭蕉の気持ちを、さまざまな情報を根拠にしながら考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「古人のような人生を送りたい」ということから、旅の途中で人生を終えてもいい。 ・ 「江戸時代は奥羽地方は未開の地であった」ということから、今までに行かなかった土地に行って、俳句を作ってみたい。 ・ 「自分の家を人に譲る」というところから、今回の旅は今までと違い、人生で最後の旅になるだろう。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>おくのほそ道の旅に出発するとき、芭蕉はどんな気持ちで旅立とうとしていたと思う？</p> </div> <p>ア 冒頭にある人生観を表す言葉</p> <p>イ 本時の資料の情報</p> <p>ウ 芭蕉の旅支度</p> <p>アイウのどれかを根拠にして芭蕉の思いを書かせる。</p>	<p>おくのほそ道への旅立ちにあたっての芭蕉の心情について、原文や資料の記述を根拠にしながら、自分の考えを持っている。</p> <p>【読む】</p>	<p>プリントの内容 発言内容</p>
--	--	--	-------------------------

7 本時の振り返りと次時の予告。

<p>分かったことをノートにまとめる。</p> <p>次時の内容を知る。</p>	<p>「松島」を過ぎて「平泉」に着いた芭蕉が何を見て、何を考えたのかを読み取ることを伝える。</p>		
--	--	--	--

板書計画

おくのほそ道 松尾芭蕉

おくのほそ道への旅立ちを前に芭蕉はどんなことを考えていたのだろうか。

【芭蕉の人生観】

「人生は旅のようなものだ」
「古人のような生き方をしたい」

【おくのほそ道プラン】

立春の頃には、**白河の関**を越えたいと思う。
今回の旅で一番先に訪れたい地は**松島**。#まづ

資料1
芭蕉の旅

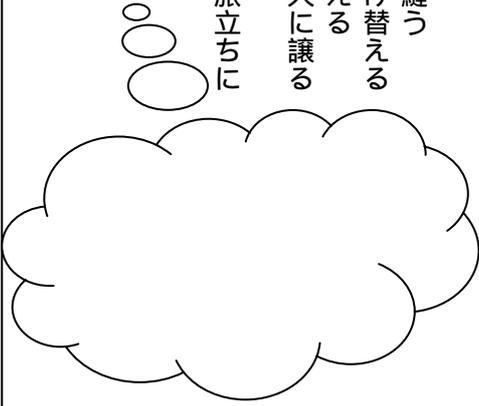
資料2
おくのほそ道のルート
松島のこと
白河の関のこと
当時の奥羽地方

資料3
江戸時代の旅事情

【芭蕉の旅支度】

- ・ 股引の破れを縫う
- ・ 笠のひもを付け替える
- ・ 三里に灸をすえる
- ・ 自分の家を他人に譲る

おくのほそ道の旅立ちにあたって
芭蕉の気持ち

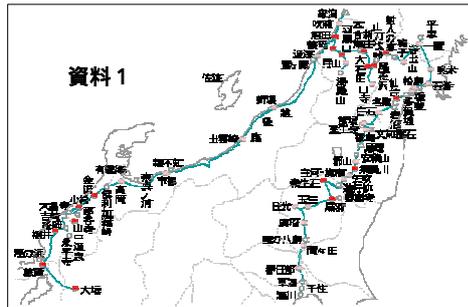


検 証

検証の方法

評価問題（定期テスト）

あなたは、芭蕉が「おくのほそ道」に出発する前にどのような気持ちになっていたと考えますか。二つ答えなさい。ただし、次の資料から根拠を見つけ、根拠を分かりやすく示しながら答えなさい。



資料2
【利根川の関】
白河の関は、5世紀頃に蝦夷の南下を防ぐ砦として設けられたといわれている。後に交通検問所となり、辺境の歌枕の地として多くの歌人にとつた。この地を訪れた人々も多く、能因法師、西行などが味わい深い歌を残している。この能因、西行の足跡をたずね来たのが芭蕉であり、この地は「奥の細道」の始まりの地となっている。

資料3
【江戸時代の奥羽地方について】
当時、奥羽地方は北の最果て、未開地の所が多く、当然の如く旅は苦難も予想された。いわば異国の地のような奥羽地方は、能因法師や西行、義経などが惹かれて旅をし、しかも伝説や歌枕、風光明媚な地が沢山あり、とても魅力的な土地だったと思われる。

採点基準

芭蕉が「おくのほそ道」に出発する前の気持ちを二つ答えている。

資料の語句や情報を読み取り、芭蕉が「おくのほそ道」に出発する前にどのような気持ちになっていたかという明確な根拠にしている。

例 資料1と資料3の江戸時代まだ未開の地であった奥羽地方へ旅をしていることから、芭蕉は旅に出る前は胸を弾ませていた、または不安だったと思う。

例 資料2と資料3の芭蕉は憧れていた西行らが訪れた地に行っていることから、芭蕉が西行たちに少しでも近づきたい、あるいは、西行たちが感じたり見たことをぜひ自分も味わい、俳句に残したいと考えていたと思う。

検証結果

資料の情報を根拠にして芭蕉の旅立ちの前の気持ちが書けている。 正答率 67%

根拠が自分の意見になっていたり、芭蕉の気持ちだけを書いている。 誤答率 29%

無回答 0.03% (2人/51人)

分析・考察

根拠を明確にして自分の考えをまとめるために、書く場面においては、理由を導き出すための「読み取る観点」を具体的に示し、書かせるために「書ける状態」を作るという指導改善を行ってきた。

生徒の解答を分析すると、資料1～3の情報と既習の芭蕉の生き方などを結びつけて、芭蕉の気持ちを考えている生徒も多く、さまざまな情報を集め自分の表現に役立てようとする力はおおむね付いたと考えられる。

しかし、無回答や問題の読み違いによる誤答もまだ多い。問題の意図をしっかりと読み取る力が必要だということが明らかになった。